

Br. Holdings Report

第12期 年次報告書

平成25年4月1日～平成26年3月31日



 株式会社 ビーアールホールディングス

証券コード:1726



「人と人」「技術と技術」の橋渡し

ビーアールホールディングスグループは、
異なる事業特性・成長ステージを擁するグループ企業で構成された企業群を目指します。
そのグループ全体をまとめ、企業価値の最大化に努め、
資本効率のさらなる向上を目指すのが、
ホールディング・カンパニーとしての当社の役割です。
欧州統一通貨ユーロ紙幣の裏面は、全てのコミュニケーションを象徴する
橋のイメージのデザインで統一されています。
株式会社ビーアールホールディングスの経営理念も同じです。
これからも「人と人」「技術と技術」の橋渡しをすることに取り組んでまいります。





代表取締役社長

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、当社の第12期(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)が終了しましたので、当社グループの業績及び事業活動をご報告させていただきます。

当社グループの第12期の業績は、当期期首の手持工事が14,100百万円(前年度期首手持ち15,172百万円)と7.1%ほど減少して始まりました。当上半期には、補修事業等の一部で工事採算が悪化したことに加え、国土交通省など発注機関から排除勧告後に倒産した同業他社の損害請求連帯責任部分の請求を受けるなど、3億円程度の損失を計上し、苦しいスタートとなりました。しかし、主要子会社2社の受注が24,115百万円(前年度受注17,983百万円)と34.1%増加し、受注時粗利率も2.0%ほど改善したため、上半期までの厳しさは薄れてまいりました。当事業年度は、極東興和(株)が国土交通省の有資格業者索引名簿の技術点で高い評価を得たためか、同省からの受注が対前年比でほぼ2倍に増加しております。東日本コンクリート(株)は東日本大震災の復旧・復興工事が本格化し、大規模な復興工事を3件受注しましたが、極東興和(株)が独自技術として、受注を増やしているマイクロパイル工法、ASRリチウム工法などと同様にPC受注額に含まれない部分が多く、PC建設業協会でのシェアは2社合計で0.88%増の6.84%と微増に止まりました。

当社グループは、復旧・復興事業や、橋りょうの長寿命化修繕計画に真摯に取り組み、受注高は25,176百万円(前年度受注高19,128百万円)と31.6%の増加となりました。しかし、第12期の売上高は19,971百万円(前年度売上高19,182百万円)と4.1%の微増に止まりました。但し、営業利益は711百万円(前年度営業利益547百万円)と30.0%増加し、経常利益は602百万円(前年度経常利益351百万円)と71.5%の増加となりました。当期純利益は、451百万円(前年度純利益269百万円)と67.6%増加となりましたが、今期は以前より毀損していた自己資本を充実するため、1株当たり株主配当は期末4円(年間8円)で据え置きとさせていただきます。

当社グループは長期的な人材育成に取り組んでおり、今年度も広島県のイノベーション人材育成事業補助金を受け国内で博士課程に、海外で修士課程に職員を派遣しております。また、各大学や研究機関との共同研究により、マイクロパイル工法やASRリチウム工法など徐々にではありますが、主に補修分野でその成果をあげつつあります。

当事業年度は苦しいスタートとなりましたが、前述のとおりその後の受注や、その内容が順調に改善したため、収入は微増でしたが、増益を達成することが出来ました。今後とも「技術で社会へ貢献する」企業グループとして、弛まず努力を続けてまいりますので株主様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

平成26年6月

PROFILE

(株)ビーアールホールディングス
代表取締役社長 藤田 公康
(昭和25年9月9日生)

昭和49年 慶応義塾大学法学部
政治学科卒業
昭和51年 ハートフォード大学
経営学部修士課程
卒業(MBA)
昭和51年 大塚製薬(株)入社
企画課長
昭和56年 極東工業(株)
(現極東興和(株))入社
取締役社長室長
昭和60年 同社代表取締役社長
平成5年 同社代表取締役会長
平成14年 当社取締役
平成17年 当社代表取締役社長
(現任)

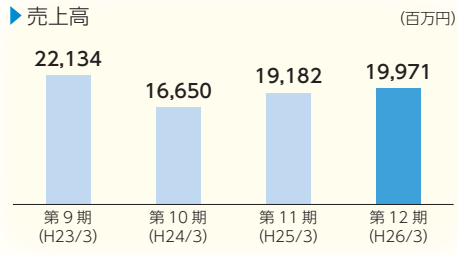
<兼職>

昭和63年 (社)広島青年会議所
理事長
平成2年 (社)日本青年会議所
会頭

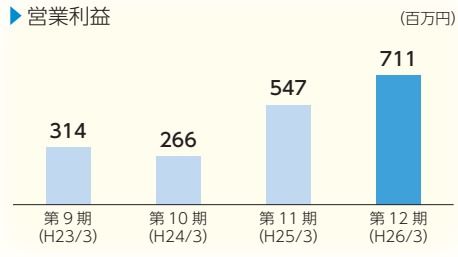
業績ハイライト

Results Highlights

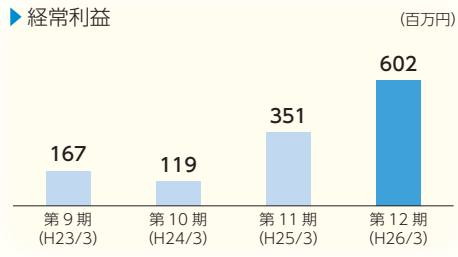
売上高



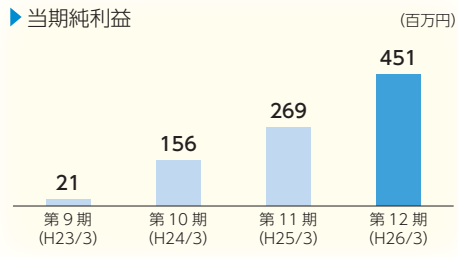
営業利益



経常利益

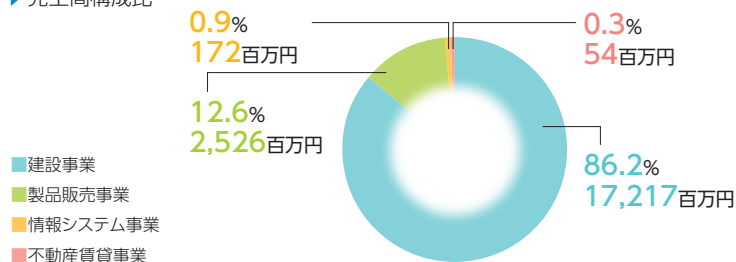


当期純利益



セグメント別の状況

売上高構成比



(注) 各事業の売上高はセグメント間取引については相殺消去しております。

建設事業

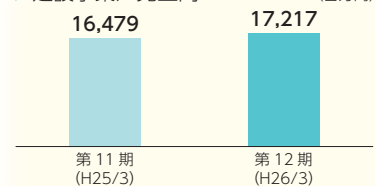
〈橋りょう土木工事の設計・施工〉

売上高 ▶ **172億17百万円** 前年同期比 ▶ **4.5%増**



建設事業におきましては、国の緊急経済対策(15か月予算)による公共事業が順次執行されたことにより、年度前半から国土交通省等の受注が伸び、当連結会計年度の受注高は219億1百万円(前年同期比36.1%増)、売上高は172億17百万円(前年同期比4.5%増)、セグメント利益は12億22百万円(前年同期比30.3%増)となりました。

建設事業／売上高



(注) セグメント間取引を含めております。

製品販売事業

〈コンクリート二次製品の販売〉

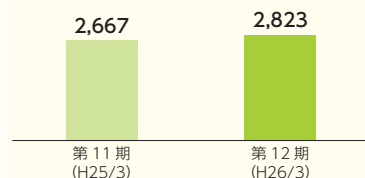
売上高 ▶ **28億23**百万円

前年同期比 ▶ **5.8%**増



製品販売事業におきましては、東日本大震災以降、防災拠点となる公共施設等の耐震化推進に伴う建築部材の需要が増えています。当連結会計年度の受注高は28億5百万円（前年同期比8.2%増）、売上高は28億23百万円（前年同期比5.8%増）、セグメント利益は2億31百万円（前年同期比5.6%増）となりました。

▶ 製品販売事業／売上高 (百万円)



(注) セグメント間取引を含めております。

情報システム事業

〈システム開発・販売〉

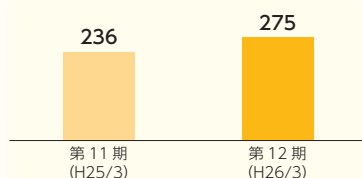
売上高 ▶ **2億75**百万円

前年同期比 ▶ **16.5%**増



情報システム事業におきましては、アベノミクス効果もありリーマンショックや東日本大震災、景気の低迷などで長らくIT投資を先送りしていた企業が、再び投資を再開する動きが見え始めておりますが、大都市圏に限定されており、中国地方では依然厳しい状況が続いております。当連結会計年度の売上高は2億75百万円（前年同期比16.5%増）、セグメント利益は8百万円（前年同期比51.4%減）となりました。

▶ 情報システム事業／売上高 (百万円)



(注) セグメント間取引を含めております。

不動産賃貸事業

〈当社ビルのマンション賃貸運営等〉

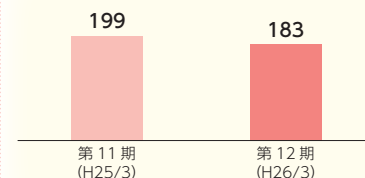
売上高 ▶ **1億83**百万円

前年同期比 ▶ **7.7%**減



不動産事業におきましては、当社保有の極東ビルディングにおいて、事務所賃貸ならびに一般店舗・住宅の賃貸管理のほか、グループ会社の拠点として、当社が一括して賃借した事務所を各グループ会社に賃貸しており、安定した売上高を計上しております。当連結会計年度はグループ各社の賃料の見直しにより、売上高は1億83百万円（前年同期比7.7%減）、セグメント利益は1億22百万円（前年同期比8.3%減）となりました。

▶ 不動産賃貸事業／売上高 (百万円)



(注) セグメント間取引を含めております。

Topics ① 太田川大橋添架歩道橋 〈極東興和株式会社〉

本橋りょうは、広島市中心部の渋滞緩和や臨海部への物流の効率化等を目的として整備される広島南道路において、太田川放水路河口部に架設された太田川大橋に添架される橋長363mの歩道橋です。橋りょうの特徴として、本線橋側方から桁下をくぐって一般道につながる特殊な歩道形状や、歩道からの眺望に配慮した橋りょうデザイン、それを可能にした特殊構造、工程短縮のためのプレキャストセグメント化（キョクトウ高宮にて製作）等が挙げられます。また、工期は4ヶ月

と極めて短く、前例のない橋りょう形式を厳しい工程条件の中で施工することとなりました。クレーン付台船や特殊吊支保工を使用した架設方法を熟考して計画するとともに、業者間の複雑な工程調整等により数多くの課題を克服し、当社の技術力をアピールできた格好の現場となりました。



Topics ② 宮城野橋 〈東日本コンクリート株式会社〉

宮城野橋はJR仙台駅北側を東西に結ぶ全長193mの橋りょうで、東西のアプローチ部と中央の跨線部で構成され、上下線が計画されています。このうち東側下り線を平成24年度、西側下り

線の3径間連続PC中空床版橋を平成25年度に施工しました。JR仙台駅に隣接する都心部での施工でしたが、支保工による場所打桁を順調に施工し、下り線の暫定開通に至っています。



宮城野橋の旧橋は、上から見ると道路がX型をしていることから通称エックス橋と呼ばれる昭和の面影を色濃く残した橋で、長い間市民に親しまれてきましたが、今後上り線施工のため撤去される予定です。東側上り線についても当社が受注しており平成26年度に施工開始となります。

東北自動車道仙台宮城ICと仙台東部道路仙台港IC付近をほぼ一直線に結ぶこととなるこの路線は、平成27年度に全線開通する予定です。

Topics 3 岡田跨線橋 〈極東興和株式会社〉

岡田跨線橋は、中国横断自動車道尾道松江線において平成26年3月に開通した吉舎IC～三次東JCT・IC間に位置し、JR福塩線を跨ぐ橋長218mのポストテンション方式6径間連結成桁の橋りょうです。

主要部材であるPC桁はキョクトウ高宮で製作し、PC板については当社の江津工場で作成しています。施工にあたっては、厳しい工程管理、JR上での夜間作業や近隣住民への振動・騒音対策などいくつもの難題はありましたが、機材の増設や地域とのコミュニケーションを積極的に実施した結果、発注者からは現場運営および管理全般を高く評価されました。



Topics 4 北陸新幹線黒部軌道スラブ 〈極東興和・東日本コンクリート共同企業体〉

北陸新幹線は、平成9年に東京～長野間が部分開業し、平成27年春に長野～金沢間が開業する予定です。本工事では、この長野～金沢間231kmのうち富山県の工区に敷設される軌道スラブ15,086枚の製作・運搬を行いました。(延べ37km分×上下線)

長年の経験と実績から、現地条件を考慮し、最適な場所に軌道スラブ製造工場を新設し、1月約500枚の生産体制を整えました。また、製品の運搬が広範囲に及ぶことから、仮置き場を中間点に設け自社製の門型クレーンを配備し、1日70枚以上の出荷に対応しました。その結果、契約工期3年10ヶ月を2.5ヶ月短縮しています。



工事期間中には、東日本大震災により仮置きした製品が被災するなど、諸問題もありましたが、発注者への迅速な報告と協議並びに誠意ある対応に努めた結果、平成26年1月無事竣工を迎えました。

工事期間中には、東日本大震災により仮置きした製品が被災するなど、諸問題もありましたが、発注者への迅速な報告と協議並びに誠意ある対応に努めた結果、平成26年1月無事竣工を迎えました。

Topics 5 近江大橋主桁改築工事 〈極東興和株式会社〉

近江大橋は、琵琶湖を横断する橋長1,290mの大規模橋りょうで昭和49年に下り線、昭和60年に上り線が完成し、上り下り合わせて4車線を有料道路として供用されていましたが、本工事のあと無料開放されました。

本工事では、主に現在の車両荷重に対応するための外ケーブルによる主桁補強や床版の炭素繊維シート補強を行いました。施工中は、国土交通省をはじめとする官庁や大学から見学者が相次ぎ、マスコミにも大きく取り上げられました。



CSR

安心して暮らせるインフラ整備に向けた取り組み

当社グループは、創業以来プレストレスト・コンクリート(PC)技術を用いた橋りょう新設工事を柱として事業展開を行ってまいりました。平成11年のピーク時の4割以下まで落ち込んだPC橋りょう関係発注額が、アベノミクス効果や東北大震災の復興需要などにより近年回復してきたことに加え、業界内シェア率が約6.84%と10年前の約2倍の水準に高まり、当社グループの業績も大幅に改善しています。しかしながら、中長期的には橋りょうを含む新規インフラ整備は漸減する見通しです。

こうした流れを受け、当社グループでは橋りょう新設工事以外の分野へ、徐々に経営資源をシフトし、事業領域の拡大に努め

て参りましたので、その取り組みをご紹介します。

第一点は、構造物の補修・補強分野です。高度経済成長期以来、建設された構造物の多くが更新時期を迎えており、国内に70万橋あるとされる橋りょうのうち、現時点で8%、20年後には53%が建設から50年以上経過し、更新や補修・補強が必要となります。この巨大な市場に対応するために、当社グループでは、在来工法による施工に加えて、省スペースで杭基礎の施工を可能としたマイクロパイル工法や、アルカリ骨材反応や塩害による劣化対策として極めて有効なASRリチウム工法などの独自技術の採用が、近年飛躍的に伸長しています。

第二の取り組みは、鉄道関連事業です。JR各社や民間鉄道事業者向けのマクラギや、新設新幹線の軌道スラブ、今後建設が開始されるリニア中央新幹線のパネルやフードなど、豊富な実績と確かな技術を背景に受注量の増加を目指しています。

上記の取組みの結果、橋りょう新設以外の工事が受注総額に占める割合は、直近3ヶ年平均で30.6%と、5年前の約3倍の水準で推移しています。今後更にこの取り組みを加速し、交通インフラをご利用の皆様により、地域社会に貢献したいと考えています。



ASRリチウム工法
山内高架橋橋りょう補修工事(佐賀県武雄市)



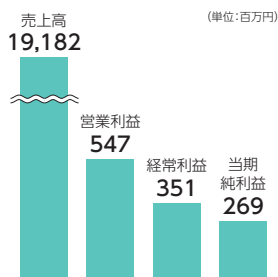
マイクロパイル工法
上矢田南歩道橋マイクロパイル(愛知県西尾市)



▶ 連結損益計算書

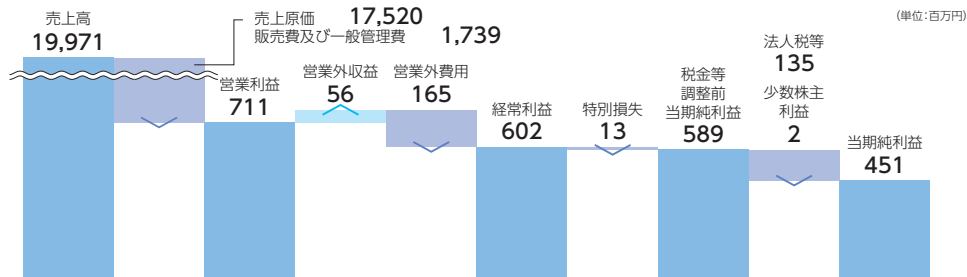
前連結会計年度

平成24年4月1日～平成25年3月31日



当連結会計年度

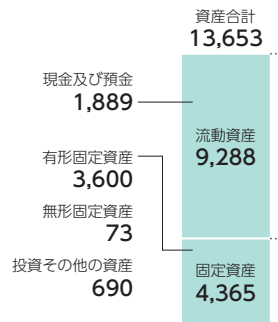
平成25年4月1日～平成26年3月31日



▶ 連結貸借対照表

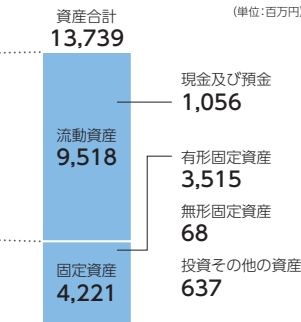
前連結会計年度末

平成25年3月31日現在



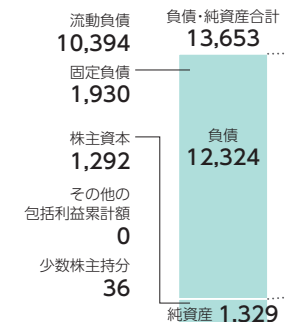
当連結会計年度末

平成26年3月31日現在



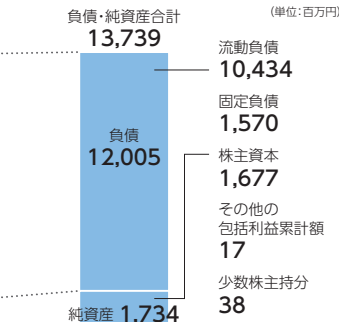
前連結会計年度末

平成25年3月31日現在



当連結会計年度末

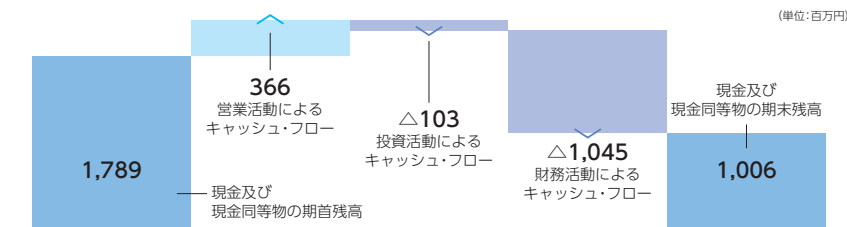
平成26年3月31日現在



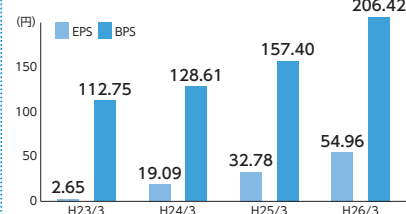
▶ 連結キャッシュ・フロー計算書

当連結会計年度

平成25年4月1日～平成26年3月31日



▶ 1株当たり 当期純利益 (EPS)、純資産 (BPS)



■ 会社概要 (平成26年3月31日現在)

商号	株式会社 ビーアールホールディングス Br.Holdings Corporation
設立	平成14年9月27日
本社所在地	広島市東区光町二丁目6番31号
電話	082-261-2860(代表)
資本金	25億円
決算期	3月31日
従業員数	8名(連結453名)

■ 代表者及び役員 (平成26年6月25日現在)

代表取締役社長	藤 田 公 康
取締役	長 谷 部 正 和
取締役	土 屋 英 治
取締役	大 田 光 英
取締役	多 賀 邦 行
常勤監査役	天 野 敏 彦
監査役	小 田 清 和
監査役	佐 上 芳 春

■ グループの概況 (平成26年3月31日現在)

東日本コンクリート株式会社

本社所在地/仙台市
事業内容/PC構造物の設計・施工
PC及びRC製品の設計・製造・販売等
コンクリート構造物の診断・補修・補強等

極東興和株式会社

本社所在地/広島市
事業内容/PC構造物の設計・施工
PC及びRC製品の設計・製造・販売等
コンクリート構造物の診断・補修・補強等

キョクトウ高宮株式会社

本社所在地/広島市
事業内容/PC製品及びコンクリート
二次製品の設計・製造・
販売・施工等

豊工業株式会社

本社所在地/大分市
事業内容/PC及びコンクリート二次
製品の製造・販売等



株式会社
ビーアールホールディングス

ケイ・エヌ情報システム株式会社

本社所在地/広島市
事業内容/ソフトウェアの設計・開発及び
販売等

※平成25年7月1日付で、極東興和株式会社と株式会社ビーアールインターナショナルは、極東興和株式会社を存続会社とする吸収合併を行いました。

株式の状況 (平成26年3月31日現在)

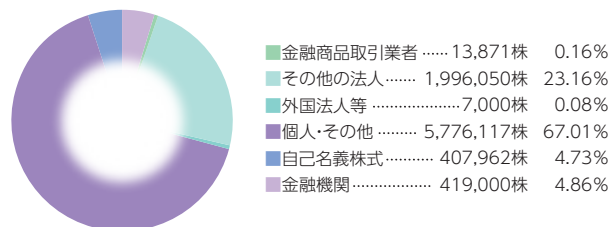
発行可能株式総数…………… 30,000,000株
 発行済株式の総数…………… 8,620,000株
 株主数…………… 984名

大株主 (上位11名)

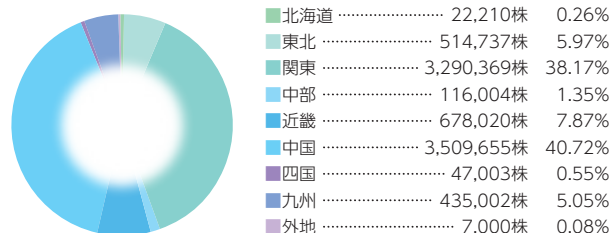
株主名	持株数	持株比率
トウショウ産業株式会社	1,300 (千株)	15.83 (%)
藤田 公 康	713	8.69
ビーアールグループ社員持株会	441	5.38
極東工業大阪支部取引先持株会	256	3.12
極東工業広島支部取引先持株会	250	3.04
広成建設株式会社	247	3.01
長 谷 部 正 和	212	2.58
株式会社三菱東京UFJ銀行	200	2.44
藤 田 衛 成	186	2.26
遠 藤 祐 子	185	2.25
藤 田 雄 山	185	2.25

(注) 持株比率は自己株式(407千株)を控除して計算しております。

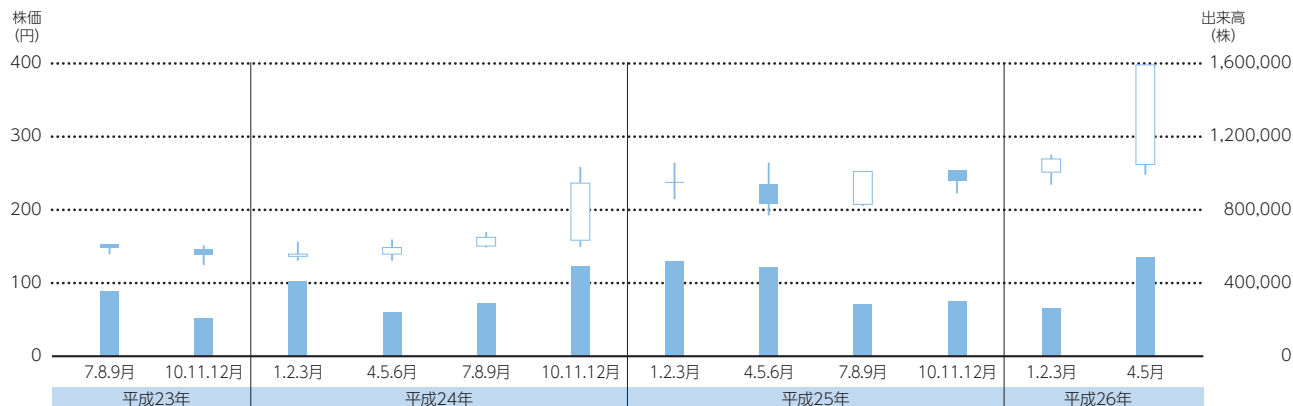
所有者別株式分布状況



地域別株式分布状況



株価の推移



■ 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部
同連絡先	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 TEL 0120-094-777 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う。 当社ホームページ (http://www.brhd.co.jp/koukoku/index.html)にて掲載。 (ただし、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。)

表紙写真について



朝潮運河橋りょう (極東興和株式会社)

東京都発注の朝潮運河橋りょうは、東京都心部と臨海部を結ぶ環状第2号線の勝どき地区と晴海地区の間を流れる朝潮運河上に架かる橋りょうです。本路線は2020年に開催される東京五輪において、選手村と各競技場を結ぶ主要な輸送ルートとなります。

本橋は3径間連結バルブT桁橋で、本線橋とその両脇の側道橋の三つの橋で構成されています。発注時は本線橋と側道橋を一橋ずつそれぞれ完成させていく計画でしたが、別工事との工程調整を勘案し、横移動機能付き2組桁架設機という大型機械を用いることで、三つの橋を同時に架設していく方法をとりました。その結果、工事中止期間が2ヶ月ありましたが、工期を延長せずに完成することができました。また、テレビや新聞雑誌などマスコミからの取材にも積極的に協力し、発注者からも高い評価をいただきました。



株式会社 ビーアールホールディングス

広島市東区光町二丁目6番31号 TEL 082-261-2860 FAX 082-261-2861

ホームページ <http://www.brhd.co.jp/>

IR情報を当社ホームページに掲載いたしておりますので、こちらからもご覧ください。

